

開口部の配置からみた礼拝空間の採光手法

安田研究室 08_14240 高橋 なつみ (TAKAHASHI, Natsumi)

1. 序 旧約聖書の「光あれ。」の言葉に象徴されるように、光は人々の信仰が重ねられた特別な存在である。宗教建築では、祈りの対象を祀る神聖な領域と人々が祈りを捧げる領域の係が、古来より集中式やパシカ式など特有の平面形式に定着してきた。神と人、光と闇という二元的な空間の原理が重なることで、祈りの場には特有の静謐さや荘厳さが感じられ、形式が多様化した近現代においても、その特徴は保持されていると考えられる。そこで本研究では、近現代の宗教建築¹⁾を対象に、礼拝空間²⁾の形態と光を導入する開口部の配置を考察することで、その採光手法にみられる特徴の一端を明らかにすることを目的とする。

2. 礼拝空間の形態 礼拝空間は、祈りの対象を祀る内陣と、人々が祈りを捧げる身廊という二つの領域に分けられる(図1)。集中式の点対称やパシカ式の線対称など、平面形にみられる対称軸と二つの領域の前後関係の重なりから、礼拝空間の平面形を分類した(表1)。平面形の対称軸と領域の前後関係が一致しているものが大半である。その中でも、直交する2軸による線対称の平面形が多くみられる。点対称の形による多数の対称軸が中心性をもつことにより、二つの領域の前後の差異を弱めるものや、対称軸をもたない非対称は少ない。次に、礼拝空間の断面形を天井高の前後方向における変化から検討した(表2)。変化なし(59/101)が大半を占める。変化のあるものでは、内陣側の天井が高い前高が最も多い(22/42)。これらから、空間に形態的な変化をつくる場合、断面よりも平面によって強調される傾向がわかる。

3. 礼拝空間における開口部の配置 内陣と身廊という二つの領域における開口部の配置を分類した(表3)。各領域に開口部を設ける内陣+身廊が最も多く(42/101)、領域をまたぐ開口部を設ける横断が次に多い(36/101)。側面または天井の一面以上を全面開口とする横断全面は約1割(14/101)みられ、横断と横断全面における開口部の組合せを検討すると、横断ではその他の開口部を設ける複合が、横断全面では全ての開口部が領域をまたぐ横断のみが多く見られる。また、横断する開口部による礼拝空間の包囲状態は、非包囲が多い(18/49)。上か下に開口部をもつものでは上のみが多い(24/101)(表5)。さらに、正面の開口部の有無では、無のものが半数以上みられた(40/101)(表6)。

4. 開口部の配置からみた礼拝空間の採光手法 前章までの平面形と開口部の配置を重ね合わせ、礼拝空間の採光手法として8の類型が得られた(表8)。①②は点対称・一致の平面形により、内陣と身廊の差異が弱められているものである。①は各領域に開口部を設けるものである。正面に開口部を設けるものが多く、平面形により生じる中心性に対して、開口部によって内陣への正面性を重ねる傾向がみられる。②は横断する開口部により各領域に介在する光を取り入れるものである。開口部が全周を囲む、天井高を中央で変化させるなど、平面形、断面形、開口部の配置による中心性を重ねる傾向がみられる。また、開口部が上下に偏り、垂直性がつくられる傾向もみられる。③④⑤⑥は線対称・一致の平面形により、一つの対称軸が内陣と身廊の前後関係と一致するものであ

no.5 MIT クレスギ礼拝堂
エーロ・サーリネン
1955年
アメリカ
2章
対称軸の重なり
一致点対称
天井高変化
後高

3章
内陣と身廊からみた開口部の配置
横断 複合
横断する開口部による包囲状態
包囲
上下の開口部の有無
上のみ
正面の開口部の有無
無

4章 類型⑥ 礼拝空間の定義

図1 分析例

図1注) 内陣と身廊の領域は、段差、素材の切り替え、袖壁によって定義する。

表1 前後関係と平面形の対称軸の重なり

	点対称		線対称		非対称
	1軸	2軸	1軸	2軸	
一致	21	15	49	16	0
不一致	0	1	2	16	0

表3 内陣と身廊からみた開口部の配置

	内陣のみ		身廊のみ		内陣+身廊		横断		複合	
	7/101	3/101	42/101	15/101	21/101	10/101	3/101			
横断のみ										
横断全面										

表2 前後方向の天井高の変化

	変化あり			変化なし
	前高	後高	中央変化	
(前) 22/101(後) 4/101(中) 16/101(平) 59/101				

表5 上下の開口部の有無

	上のみ			下のみ			上+下			無し		
	24/101	4/101	10/101	22/101	5/101	1/101	0	0	0	0	0	
包囲												
非包囲												

表4 横断する開口部による包囲状態

	包囲		非包囲	
	(○) 18/49	(□) 31/49	(○) 40/101	(-) 61/101
正面にある横断する開口部は除く。				

表6 正面の開口部の有無

	有		無	
	(○) 40/101	(-) 61/101	(○) 40/101	(-) 61/101
正面にある横断する開口部は除く。				

